一般用医薬品およびサプリメントの購入時における お薬手帳の利用意識向上を目指した集団指導の効果

舘 知也^{1,2}, 浅野祥子¹, 後藤千寿², 吉田達彦³, 白井一将¹, 加藤未紗¹
横井貴文¹, 野口義紘¹, 田中和秀², 安田昌宏², 水井貴詞², 寺町ひとみ^{*1}
岐阜薬科大学 病院薬学研究室¹, 岐阜市民病院 薬剤部², 岐阜市薬剤師会会営ぎふ西調剤薬局³

Effect of Group Instructions for Improving Awareness about Medication-notebook Use on the Purchase of Over-the-counter Drugs and Dietary Supplements

Tomoya Tachi^{1,2}, Shoko Asano¹, Chitoshi Goto², Tatsuhiko Yoshida³,
Kazumasa Usui¹, Misa Kato¹, Takafumi Yokoi¹, Yoshihiro Noguchi¹,
Kazuhide Tanaka², Masahiro Yasuda², Takashi Mizui² and Hitomi Teramachi^{*1}
Laboratory of Clinical Pharmacy, Gifu Pharmaceutical University¹
Department of Pharmacy, Gifu Municipal Hospital²
Gifu-nishi Pharmacy, Gifu-city Pharmaceutical Association³

〔 Received September 26, 2014 〕
〔 Accepted December 1, 2014 〕

Information on ethical drugs is managed by medication notebooks but information on over-the-counter (OTC) drugs and dietary supplements is hardly covered. Therefore, it is important to understand the awareness about medication-notebook use on the purchase of OTC drugs and dietary supplements and to take measures to improve awareness. In our study, in order to understand the awareness and situation of medication-notebook use and clarify the effect of group instructions for improving the awareness, we gave a lecture about medication-notebook use and investigated items such as awareness about medication notebooks before and after the lecture. We conducted a questionnaire survey in 80 participants in a public lecture in Gifu Municipal Hospital on April 19, 2014. The lecture explained about medication notebooks and their usefulness for ethical drugs, OTC drugs and dietary supplements, etc. The items of the questionnaire were, for example, awareness about medication-notebook use for ethical drugs, OTC drugs and dietary supplements (Likert scale, evaluation 1-5). The recovery rate of questionnaires was 80.0%. Regarding the awareness about medication-notebook use for OTC drugs and dietary supplements, the rates of evaluations 4 and 5 before the lecture were low (30-50%) regardless of ways of purchasing them, but the evaluations increased significantly after the lecture ($P < 0.05$). Our study clarified that awareness about using medication-notebooks for OTC drugs and dietary supplements is insufficient at present and suggested that group instructions about medication-notebook use improve awareness.

Key words — medication notebook, over-the-counter drug, dietary supplement, lecture, questionnaire survey, awareness

緒 言

お薬手帳は、医療用医薬品、一般用医薬品等の医薬品の使用歴を記録することにより、医薬品の副作用、相互作用、重複使用等を防ぐだけでなく、

健康食品を含むサプリメントの使用歴を記録し、医薬品との相互作用等を防ぐことができる有益なツールである。^{1,2)} 最近では、災害等の不測の事態においてもお薬手帳が有用であり、³⁾ お薬手帳を携帯することにより医療情報が保持され、適切な治

* 〒501-1196 岐阜市大学西1-25-4

療を受けることができると認識されてきている。

診療報酬において医療機関間で薬剤情報を共有する手段としてお薬手帳が評価され、お薬手帳による医療用医薬品の情報管理が積極的に行われている。^{4,5)} 現在、医科診療報酬では薬剤情報提供料の手帳記載加算および退院時薬剤情報管理指導料において、調剤診療報酬では薬剤服用歴管理指導料においてお薬手帳の活用が求められている。

一方、セルフメディケーションの推進により一般用医薬品やサプリメントを自身で購入し使用する機会が多くなってきているが、お薬手帳による一般用医薬品やサプリメントの情報管理はほとんど進んでいない。アンケートによる意識調査では、サプリメントのお薬手帳への記載について、薬剤師は重要であると考えているのに対し、患者は重要ではないと考えており、薬剤師および患者ともに活用していないと考えていると報告されている。⁶⁾ また、堀らの著書では一般用医薬品やサプリメントをお薬手帳に記載することの活用例やその有用性が記述されている。⁷⁾ このように、お薬手帳による一般用医薬品やサプリメントの情報管理は相互作用や重複使用を防ぐうえで非常に重要かつ有用であるが、実際には行われていないことからその推進が急務となっている。お薬手帳による一般用医薬品やサプリメントの情報管理の推進のための活動として、ドラッグストアにおけるお薬手帳配布活動が報告されている。⁸⁾ 一方、集団指導は一度に多くの人に対して指導が行える効率的な指導手法であるが、一般用医薬品やサプリメントにおけるお薬手帳の利用を推進するための集団指導を評価した報告はない。

そこで、本研究では、医療用医薬品、一般用医薬品およびサプリメントの購入時におけるお薬手帳の利用意識や利用状況を把握し、お薬手帳の利用に関する集団指導のお薬手帳利用意識に対する効果を明らかにするために、お薬手帳の利用に関する講演を実施し、講演前後でお薬手帳に関するアンケート調査を行った。

方 法

1. 調査対象および調査方法

2014年4月19日に実施された平成26年度第1

回岐阜市民病院市民公開講座への参加者80名を対象とし、講演前後で無記名式アンケート調査を行った。講演前後に回答してもらうアンケート用紙にはあらかじめ同一の番号を印刷しておき、講演前に参加者に1部ずつ配布した。なお、アンケートへの回答は自由意志とし、本調査に同意が得られた場合にのみ回答してもらった。

2. 講演内容

平成26年度第1回岐阜市民病院市民公開講座のなかで、「薬局薬剤師から薬とかかりつけ薬局の話～お薬手帳もお願いします～」の題目にて薬局薬剤師（経験年数16年）が講演を行った。講演では、「かかりつけ薬局やお薬手帳を持つことにより医薬品の副作用、相互作用、重複使用等を防ぐことができること」や「お薬手帳は、医療用医薬品だけでなく一般用医薬品やサプリメントの使用歴を記録し、医薬品との相互作用等を防ぐことができること」に焦点を当てて説明し、「お薬手帳は、病院や調剤薬局だけでなくドラッグストアでも提示し、インターネット・通販での一般用医薬品やサプリメントの購入時には自分で日付と商品名を記載すること」を勧奨した。講演のスライドの一般用医薬品およびサプリメントに関する部分の一部を図1に示す。

3. 調査項目

本研究で用いたアンケート用紙を図2に示す。

講演前のアンケートの調査項目は、性別（講演前－設問①）、年齢（講演前－設問②）、医療用医薬品、一般用医薬品およびサプリメントにおける利用意識に関する設問7項目（講演前－設問③）、医療用医薬品、一般用医薬品およびサプリメントにおけるお薬手帳の提示経験に関する設問4項目（講演前－設問④⑤⑥⑦）とした。医療用医薬品、一般用医薬品およびサプリメントにおける利用意識に関する設問7項目は、「A. お薬手帳の携帯意識」、「B. 医師へのお薬手帳提示意識」、「C. 医療用医薬品受取時における薬剤師へのお薬手帳提示意識」、「D. 店舗での一般用医薬品購入時のお薬手帳提示意識」、「E. 店舗でのサプリメント購入時のお薬手帳提示意識」、「F. 通販による一

図1 市民公開講座「薬局薬剤師から薬とかりつけ薬局の話～お薬手帳もお願いします～」のライドの一部

「一般用医薬品購入時のお薬手帳記載意識」および「G. 通販によるサプリメント購入時のお薬手帳記載意識」とした。

講演後のアンケート調査項目は、医療用医薬品、一般用医薬品およびサプリメントにおける利用意識に関する設問7項目と講演に対する満足度（講演後－設問①）および自由記述（講演後－設問②）とした。

なお、医療用医薬品、一般用医薬品およびサプリメントにおける利用意識に関する設問7項目と講演に対する満足度の回答形式はリッカート尺度とし、「そう思わない」を評価1、「ややそう思わない」を評価2、「どちらともいえない」を評価3、「ややそう思う」を評価4、「そう思う」を評価5とした。

4. 評価および解析

医療用医薬品、一般用医薬品およびサプリメントにおける利用意識に関する設問では、評価4以上を回答した参加者の割合を評価した。また、講演前後の意識の変化は、Wilcoxonの符号付順位和検定により解析を行った。統計処理はSPSS18.0J（Armonk, New York）を用いた。なお、 $P < 0.05$ を有意差ありとした。

5. 倫理

岐阜薬科大学の生命倫理委員会の承認後、本研究を実施した。

結 果

1. 患者の性別および年齢

参加者80名中64名よりアンケートの回答を得た（回収率80.0%）。性別および年齢の内訳を表1に示す。性別は、男性43.8%、女性50.0%、未回答6.3%であった。年齢は、60歳以上が81.3%と最も多かった。

2. 医療用医薬品、一般用医薬品および

サプリメントにおけるお薬手帳の利用意識

医療用医薬品、一般用医薬品およびサプリメントにおけるお薬手帳の利用意識に関する講演前後の結果を図3に示す。「A. お薬手帳の携帯意識」、「B. 医師へのお薬手帳提示意識」および「C. 医療用医薬品受取時における薬剤師へのお薬手帳提示意識」の設問では、評価4以上の割合はそれぞれ70.0%、52.5%、66.1%であり、講演前から50%を超えていた。一方、「D. 店舗での一般用医薬品購入時のお薬手帳提示意識」、「E. 店舗でのサプリメント購入時のお薬手帳提示意識」、「F. 通販による一般用医薬品購入時のお薬手帳記載意識」および「G. 通販によるサプリメント購入時のお薬手帳記載意識」の設問では、評価4以上の割合はそれぞれ44.3%、34.4%、36.7%、41.7%であり、講演前は50%以下であった。

また、Wilcoxonの符号付順位和検定の結果、AからGの評価は講演後に有意に上昇した（それぞれ $P = 0.017$, $P < 0.001$, $P = 0.003$, $P < 0.001$, $P < 0.001$, $P < 0.001$, $P < 0.001$ ）。

3. 医療用医薬品、一般用医薬品およびサプリメントにおけるお薬手帳の提示経験

医療用医薬品、一般用医薬品およびサプリメントにおけるお薬手帳の提示経験の結果を表1に示す。医師の診察を受ける際に、医師にお薬手帳を見せたことがある人は50.8%であった。処方せん

の薬をもらう際に、薬剤師にお薬手帳を見せたことがある人は68.9%であった。また、薬局などで市販薬を買う際に薬剤師などにお薬手帳を見せたことがある人は20.0%であった。見せたことがない人（48人）では、その理由として、「市販薬を買うときにはお薬手帳を持って来ないから」が

お薬手帳に対する意識についてのアンケート（講演後）						番号 _____
<p>本アンケートはお薬手帳に対する意識を調査する目的で実施しております。本アンケート用紙は厳重に保管し貴重な資料として使わせていただきます。また、本アンケート結果は学術学会や学会誌にて公表されることがあります。なお、このアンケートの回答は任意によるものです。回答しない場合でもなんら不利益を被ることはありません。</p> <p>調査にご協力いただける方は、下記の質問にお答えいただきご提出をお願いいたします。</p> <p>① 下記A～Hの質問において、「1. そう思わない、2. ややそう思う、3. どちらともいえない、4. ややそう思う、5. そう思う」のいずれか1つを選択し、数字に丸を付けて下さい。</p>						
質問	そう 思わない	やや そう思わ ない	どちらとも いえない	やや そう思う	そう思う	
A. お薬手帳を常に携帯しようと思う。	1	2	3	4	5	
B. 医師の診察を受ける際に、 医師にお薬手帳を見せようと思う。	1	2	3	4	5	
C. 処方せんの薬をもらう際に、 薬剤師にお薬手帳を見せようと思う。	1	2	3	4	5	
D. 薬局などで市販薬（処方せんなしで買える薬）を買う際に、 薬剤師などにお薬手帳を見せようと思う。	1	2	3	4	5	
E. 薬局などでサプリメントを買う際に、 薬剤師などにお薬手帳を見せようと思う。	1	2	3	4	5	
F. 通販やインターネットで買った市販薬について、 自分でお薬手帳に書こうと思う。	1	2	3	4	5	
G. 通販やインターネットで買ったサプリメントについて、 自分でお薬手帳に書こうと思う。	1	2	3	4	5	
H. 今回のお薬手帳の話は満足であった。	1	2	3	4	5	
<p>② 今回のお薬手帳の話を聞いて、感じたことや思ったことがあればご記入ください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div>						
ご協力ありがとうございました。						

図2 アンケート用紙（講演後）

50.0%で最も多く、「薬剤師などからお薬手帳を見せるように求められないから」が37.5%で次が多かった。「その他」において、「市販薬を買わない」旨の記載をした人は18.8%（9人）であった。「市販薬を買わない」旨の記載をした人を除き、一般用医薬品を購入したことがある人のうち一般用医薬品におけるお薬手帳の薬剤師等への提示経験のある人の割合を求めると、23.5%であった。一方、薬局などでサプリメントを買う際に、薬剤師などにお薬手帳を見せたことがある人は12.7%であった。見せたことがない人（48人）では、その理由として、市販薬と同様に「サプリメントを買うときにはお薬手帳を持って来ないから」が37.5%で最も多く、「薬剤師などからお薬手帳を見せるように求められないから」が31.3%で次が多かった。「その他」において、「サプリメントを買わない」旨の記載をした人は27.1%（13人）であった。「サプ

リメントを買わない」旨の記載をした人を除き、サプリメントを購入したことがある人のうちサプリメントにおけるお薬手帳の薬剤師等への提示経験のある人の割合を求めると、16.7%であった。

4. 講演に対する満足度および自由記述

講演の満足度について評価4以上を回答した人の割合は83.3%であった（表1）。自由記述においては、「お薬手帳の大切さがよくわかった」、「これからはお薬手帳を持ち歩こうと思う」、「診療の前にお薬手帳を出したことがなかったがこれからは出すようにしたい」といった肯定的な意見が見られた。一方、「お薬手帳携帯の必要性は理解できたが常に持ち歩きは難しい」、「医者に診察をされるときにお薬手帳を必要とされない」など、お薬手帳の携帯率向上のための対策を考案するうえで有益な意見も見られた。

図3 医療用医薬品、一般用医薬品およびサプリメントにおけるお薬手帳の利用意識

■ 評価1：そう思わない、■ 評価2：ややそう思わない、□ 評価3：どちらともいえない、■ 評価4：ややそう思う、■ 評価5：そう思う。Wilcoxonの符号付順位和検定。* $P < 0.05$ 。

表1 アンケートの結果

設問	回答	人数
① 性別 (n = 60)	男性	28 人 (46.7%)
	女性	32 人 (53.3%)
② 年齢 (n = 60)	20 歳未満	0 人 (0%)
	20 歳以上 40 歳未満	3 人 (5.0%)
	40 歳以上 60 歳未満	5 人 (8.3%)
	60 歳以上	52 人 (86.7%)
④ 医師へのお薬手帳提示経験 (n = 63)	はい	32 人 (50.8%)
	いいえ	31 人 (49.2%)
⑤ 医療用医薬品受取時における薬剤師へのお薬手帳提示経験 (n = 61)	はい	42 人 (68.9%)
	いいえ	19 人 (31.1%)
講演前 店舗での一般用医薬品購入時のお薬手帳提示経験 (n = 60)	はい	12 人 (20.0%)
	いいえ	48 人 (80.0%)
⑥ ⑥で提示経験がない人の理由 (n = 48) (複数回答可)	お薬手帳自体を持っていないから	3 人 (6.3%)
	市販薬を買うときにはお薬手帳を持って来ないから	24 人 (50.0%)
	薬剤師などからお薬手帳を見せるように求められないから	18 人 (37.5%)
	お薬手帳を見せる必要性を感じないから	11 人 (22.9%)
	その他	11 人 (22.9%)
店舗でのサプリメント購入時のお薬手帳提示経験 (n = 55)	はい	7 人 (12.7%)
	いいえ	48 人 (87.3%)
⑦ ⑦で提示経験がない人の理由 (n = 48) (複数回答可)	お薬手帳自体を持っていないから	4 人 (8.3%)
	サプリメントを買うときにはお薬手帳を持って来ないから	18 人 (37.5%)
	薬剤師などからお薬手帳を見せるように求められないから	15 人 (31.3%)
	お薬手帳を見せる必要性を感じないから	14 人 (29.2%)
	その他	14 人 (29.2%)
講演後 講演の満足度 (n = 60)	そう思わない	5 人 (8.3%)
	ややそう思わない	0 人 (0%)
	どちらともいえない	2 人 (3.3%)
	ややそう思う	10 人 (16.7%)
	そう思う	43 人 (71.7%)

考 察

本研究では、医療用医薬品、一般用医薬品およびサプリメントの購入時におけるお薬手帳の利用意識や利用状況を把握し、お薬手帳の利用に関する集団指導のお薬手帳利用意識に対する効果を明らかにするために、お薬手帳の利用に関する講演を実施し、講演前後でお薬手帳に関するアンケート調査を行った。

「A. お薬手帳の携帯意識」、「B. 医師へのお薬手帳提示意識」および「C. 医療用医薬品受取時における薬剤師へのお薬手帳提示意識」では、講演前に半数以上の人々が評価4以上を回答した。診療報酬において医療機関間で薬剤情報を共有する手段としてお薬手帳が評価されていることや医師からお薬手帳が診療上有効であるとの評価を得ていること²⁾から、医療関係者による積極的なお薬手帳の利用勧奨が行われ、お薬手帳による医療用医薬品の管理が進んでおり、^{4,5)}患者の医療用医薬品でのお薬手帳の利用意識にも反映されていることが考えられる。一方、「D. 店舗での一般用医薬品購入時のお薬手帳提示意識」、「E. 店舗でのサプリメント購入時のお薬手帳提示意識」、「F. 通販による一般用医薬品購入時のお薬手帳記載意識」および「G. 通販によるサプリメント購入時のお薬手帳記載意識」では、講演前に評価4以上を回答した人は30～50%と低く、購入方法にかかわらず一般用医薬品およびサプリメントにおけるお薬手帳の利用意識は低いことがわかった。このことは、患者がサプリメントにおけるお薬手帳の利用の重要性は低いと考えていると以前に我々が報告した結果⁶⁾と一致する。

また、Wilcoxonの符号付順位検定の結果、AからGの意識は有意に上昇したことから、市民公開講座を利用した集団指導はお薬手帳の利用意識の向上に寄与したことが示唆される。特に、「D. 店舗での一般用医薬品購入時のお薬手帳提示意識」、「E. 店舗でのサプリメント購入時のお薬手帳提示意識」および「F. 通販による一般用医薬品購入時のお薬手帳記載意識」では、講演前後で評価4以上の割合が30%近く上昇したため、店舗での一般用医薬品およびサプリメントの購入と

通販による一般用医薬品の購入時のお薬手帳の利用意識に対して、講演は効果的であったと示唆される。このことは、講演を受けた人が、医療用医薬品だけでなく一般用医薬品およびサプリメントの購入時にもお薬手帳を利用することが重要であることを理解したと考えられる。

一般用医薬品およびサプリメントにおけるお薬手帳の薬剤師等への提示経験のある人の割合は、10～20%であったことから、多くの人が一般用医薬品およびサプリメントの購入時にお薬手帳を提示したことがないことがわかった。一般用医薬品およびサプリメントを購入したことがある人のうち一般用医薬品およびサプリメントにおけるお薬手帳の薬剤師等への提示経験のある人の割合は、それぞれアンケートの結果よりも若干上昇するが、同様の考察が可能であると考えられる。お薬手帳の携帯率は、田中らの報告⁹⁾では76.9%、山浦らの報告²⁾では62.7%であり、これらの値と比較すると、一般用医薬品およびサプリメントにおけるお薬手帳の薬剤師等への提示経験のある人の割合はかなり低い値となった。このことから、お薬手帳を携帯しているが、一般用医薬品およびサプリメントの購入時には提示しない人が多いことが考えられる。また、一般用医薬品およびサプリメントの購入時にお薬手帳を提示したことがない理由として、購入時にお薬手帳を持って来ないこと、薬剤師等からお薬手帳を見せるように求められないことが多かった。その対策として、薬剤師等が一般用医薬品およびサプリメントの販売時に、その購入者に対しお薬手帳の携帯と提示を促すことが考えられる。また、一般用医薬品およびサプリメントの販売時に薬剤師による服薬指導や情報提供の頻度が低いことが報告されている。^{10,11)}セルフメディケーションの推進の一環として、一般用医薬品およびサプリメントの適正使用を推進するうえで、薬剤師は一般用医薬品やサプリメントの販売時には情報提供を適切に行い、お薬手帳の利用を勧奨していく必要がある。

また、本講演に対する満足度では、評価4以上を回答した人の割合は80%以上と高く、本講演に対して、多くの人が満足であった。一般用医薬品およびサプリメントの購入時にお薬手帳を利用し、

医療機関間でその情報を共有することが自身にとって有益であることを初めて理解した人が多かったことがその一因であると考えられる。また、自由記述では、お薬手帳の携帯率向上のための対策を考案するうえで有益な意見も見られたことから、これらの意見を参考にお薬手帳の携帯率が向上するよう講演を改善していくことが必要である。

本研究の限界として、岐阜市近郊の80人という一地域の少人数を対象とした1人の薬剤師による1回の講演であるため、一般化するには慎重を要すると思われる。また、本研究の目的としてお薬手帳の利用意識向上を挙げており、今回の結果は講演直後の利用意識向上を示したものである。今後、長期的な利用意識向上を継続するには、定期的な集団指導等が必要であると考えられる。最終的に利用意識向上から、お薬手帳を利用するという行動変容につなげることが重要であるので、本集団指導がより実効性の高いものであることを示すには、その行動変容を調査する必要がある。

本研究により、現状として一般用医薬品およびサプリメントにおけるお薬手帳の利用意識は低く、一般用医薬品およびサプリメントの購入時のお薬手帳の提示経験も低いことが明らかとなった。また、提示しない理由として、購入時にお薬手帳を持って来ないことや薬剤師等からお薬手帳を見せるように求められないことも明らかとなった。さらに、お薬手帳利用に関する集団指導は一般用医薬品およびサプリメントにおけるお薬手帳の利用意識を向上させることが示唆された。薬剤師は一般用医薬品やサプリメントの販売時にお薬手帳の携帯や利用を勧奨したり、集団指導を開催したりするなどして、一般用医薬品およびサプリメントにおけるお薬手帳の利用意識を高め、セルフメディケーションの一躍を担っていく必要があると考える。

利益相反

開示すべき利益相反はない。

引用文献

- 1) 小嶋文良, 武田直子, 武田真美子, 櫻井可奈子, 半田貢康, 相原由香, 峯田 純, 新田幸男, 伊藤順子, 岡寄千賀子, 仲川義人, 渡辺康弘, お薬手帳の活用度調査, 第4報: 山形市内の医師に対するお薬手帳の認識と活用に関するアンケート調査, 医療薬学, 2007, **33**, 54-59.
- 2) 山浦克典, 増田道雄, 元橋 克, 倉持欽也, 石塚とみ子, 染谷敏文, 菅沼康次, 元橋 元, 岩井市におけるお薬手帳活用状況と医師によるお薬手帳の有有用性評価, *Yakugaku Zasshi*, 2003, **123**, 151-155.
- 3) 宮元剛典, 災害医療で役立つおくすり手帳, 調剤と情報, 2000, **6**, 1711-1714.
- 4) 小嶋文良, 櫻井可奈子, 伊藤順子, 岡寄千賀子, 武田直子, 半田貢康, 武田真美子, 相原由香, 峯田純, 東海林徹, 仲川義人, 渡辺康弘, 山形県内の保険薬局におけるお薬手帳の活用度調査, 医療薬学, 2005, **31**, 290-294.
- 5) 足立哲夫, 丹羽孝司, 田頭正至, 窪田傑文, 鎌田久代, 原 宏和, 平野和行, 岐阜薬科大学附属薬局における「お薬手帳」の利用状況, 医療薬学, 2002, **28**, 164-171.
- 6) 志賀仁美, 寺町ひとみ, 鈴木仁志, 駒田奈月, 田村顕人, 舘 知也, 土屋照雄, お薬手帳の重要度および活用度に対する患者および薬剤師の意識調査, ファーマシューティカルコミュニケーション学会会誌, 2012, **10**, 24-35.
- 7) 堀美智子, 鈴木則子, “お薬手帳の実践的活用法”, じほう, 東京, 2009, pp1-198.
- 8) 志智早織, 藤田知子, 川上絵梨子, 樋上彰子, 橋本大輔, 藤田 (濱邊) 和歌子, 徳山尚吾, ドラッグストア薬剤師による地域住民への情報提供活動の必要性和意義, 医薬品情報学, 2009, **11**, 88-95.
- 9) 田中直哉, 小椋章次, 近藤澄子, 田中秀和, 佐藤均, お薬手帳携帯率向上を目指した情報シールの開発とその評価, 医療薬学, 2007, **33**, 958-966.
- 10) 佐藤洋美, 奥澤紘子, 山浦克典, 上野光一, 一般用医薬品販売制度改革に対する薬学生, 薬剤師, 一般消費者の意識比較に関する調査, 医療薬学, 2010, **36**, 406-412.
- 11) 野田敏宏, 新敷祐士, 安西恵子, 川崎啓子, 栗原智仁, 高市和之, 高野紀子, 中村峰夫, 西野健三, 山田和也, 平井みどり, 田崎嘉一, 松原和夫, 吉山友二, 井関 健, 薬剤師によるサプリメント説明における来局患者の期待と説明実態との間の大きなギャップ, 日本プライマリ・ケア連合学会誌, 2013, **36**, 93-98.